



エコ・ファーストの約束（更新書）

～ 環境先進企業としての地球環境保全の取り組み ～

令和3年12月27日

環境大臣 山口 壯 殿

株式会社クボタ

代表取締役社長 北尾 裕一

クボタグループは、食料・水・環境の分野で、社会の発展と地球環境の保全に貢献する企業グループでありたいと考え、地球環境の保全を事業経営の最重要課題と位置づけ、以下の取り組みを進めてまいります。

1 脱炭素社会構築に向けた取り組みを重点的に実施します。

- (1) クボタグループのバリューチェーン全体で温室効果ガスの排出を抑制し、2050年実質ゼロに挑戦します。また、サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量（Scope1, Scope2, Scope3）への取り組みに関する情報を公開していきます。
- (2) 国内外のクボタグループの生産事業所において、生産高当たりのCO₂排出量を2014年度比で2025年度に25%以上削減します。
- (3) 国内外のクボタグループの生産事業所において、生産高当たりのエネルギー使用量を2014年度比で2025年度に18%以上削減します。
- (4) 国内外のクボタグループの生産事業所において、電力消費量に占める再生可能エネルギー利用率を2025年度に1%以上にします。
- (5) 長期目標として2030年度に、国内クボタグループの事業所からのCO₂排出量を2014年度比で30%削減します。
- (6) 上記目標達成のため、生産設備・空調機器・照明機器等の高効率化、生産設備の燃料転換、建物や設備の高断熱化、エネルギーの見える化とムダ取り、廃熱回収、太陽光発電の導入やグリーン電力等、利用可能な最先端技術の導入を最大限実施します。
- (7) クボタグループは、脱炭素型の製品・サービス・技術の普及による温室効果ガス排出削減が促進されるよう、その削減効果を定量的に把握するとともに、国内外の顧客等に積極的に削減効果について情報提供・啓発を行います。農業機械や建設機械の作業燃費の改善、ロボット化やICTの活用によるスマート農業を推進します。また、電動化・ハイブリッド化や燃料電池化など、動力の脱炭素化に向けた研究開発に挑戦します。
- (8) クボタグループはTCFD提言に賛同し、積極的に気候変動関連の情報開示を行います。

2 循環型社会の形成に向けた取り組みを積極的に実施します。

- (1) 国内外のクボタグループの生産事業所において、鉱さいの発生量削減や廃液濃縮などにより廃棄物の3R（Reduce・Reuse・Recycle）の取り組みを推進し、生産高当たりの廃棄物排出量を2014年度比で2025年度に33%以上削減します。また、生産高当たりの有害廃棄物^{*}排出量を2019年度比で2025年度に3%以上削減します。
※有害廃棄物とは日本国内は特別管理産業廃棄物、海外はその国や地域の法令で定められた有害廃棄物を対象とします。
- (2) 廃棄物の再資源化を推進し、2025年度に国内生産事業所が排出する廃棄物の再資源化率^{*}を99.5%以上に、海外生産事業所の再資源化率^{*}を90%以上にします。
※再資源化率(wt%) = (有価物売却量+社外再資源化量) ÷ (有価物売却量+社外再資源化量+埋立量) × 100
社外再資源化量には熱回収量を含みます。
- (3) 国内外のクボタグループの生産事業所において、水の3R（Reduce・Reuse・Recycle）の取り組みを推進し、生産高当たりの水使用量を2014年度比で2025年度に23%以上削減します。
- (4) 資源の有効利用を促進するため次の3点に取り組みます。
 - 1) 事業所内での使い捨てプラスチック削減
 - 2) 取引先と協働し梱包材の省資源化、リターナブル化
 - 3) 事業所内での従業員一人一人の取り組みや電子化の推進などによるペーパーレス化
- (5) 海洋プラスチック汚染の原因となる散乱ごみを回収するため、国内クボタグループの生産事業所周辺道路において、1回/年以上美化活動を実施します。
- (6) クボタグループは、事業のバリューチェーン全体で資源の有効活用、廃棄物削減などの取り組みを通じ、プラスチックの排出抑制を推進していきます。例えば、事業所の食堂内でのワンウェイプラスチックの廃止や、製品に使用する素材の表示に努めます。

3 大気環境への負荷低減に取り組みます。

- (1) 国内外のクボタグループの生産事業所において、生産高当たりのVOC*排出量を2014年度比で2025年度に42%以上削減します。
※削減対象VOCは、キシレン、トルエン、エチルベンゼン、スチレン、1,2,4-トリメチルベンゼン、1,3,5-トリメチルベンゼンの6物質とします。
- (2) 国内外のクボタグループの生産事業所において、事業活動に伴う揮発性有機化合物の排出又は飛散を抑制するために必要な措置を講じます。

4 環境配慮性の高い製品の開発に取り組みます。

- (1) 製品の開発段階において環境性能の向上とライフサイクル環境負荷の削減に取り組み、エコプロダクツ認定製品の売上高比率*を2025年度に70%以上にします。また、2030年度に同比率*を80%以上にします。
さらに、2030年度以降に上市する新製品は全てエコプロダクツ認定製品をめざします。
低炭素型製品・サービスの提供による省エネルギー効果を定量的に把握し、顧客等に積極的に情報提供を行います。
※エコプロダクツ社内認定制度で基準をクリアした製品の売上高比率
$$\text{エコプロダクツ認定製品売上高比率 (\%)} = \frac{\text{エコプロダクツの売上高}}{\text{製品の売上高 (工事、サービス、ソフト、部品・付属品を除く)}} \times 100$$
- (2) 鋳物製品・部品のリサイクル素材使用率*として70%以上を継続します。
※クボタグループで製造する鋳物製品・部品(ダクタイル鋳鉄管、異形管、機械鋳物(エンジンのクランクケース等))でのリサイクル素材使用率(wt%)です。
- (3) 新規部品の素材を表示し、素材情報を提供します。
- (4) 日米欧の最新の排出ガス規制に対応した産業用ディーゼルエンジンを開発し、搭載製品*を市場投入します。
※欧州EU規制(Euro Stage V)相当に対応したエンジンを搭載した欧州・北米・日本・韓国向けトラクタ、コンバイン(出力帯:56kw \leq P<560kw)を対象とします。

5 生物多様性の保全のための活動を推進します。

- (1) 生物多様性の保全のための活動指針に基づいて、事業活動に伴う環境負荷や環境リスクを適切に管理するとともに、事業所内の緑化やビオトープの設置を通して、自然環境の保護と生物多様性の保全を推進します。
- (2) 社会貢献活動として地域の自然環境の保護や生物多様性の保全を推進します。

株式会社クボタは、上記取り組みの推進状況を確認するとともに、その結果について環境省への報告及び統合報告書などによる公表を行ってまいります。

For Earth, For Life
Kubota